

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 3年 3月15日

事業所名 olive

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	66.6%	16.7%	16.7%	・スペース確保のための環境整備。	・訓練スペースの環境改善箇所の意見聴取を行い、改善目標を建てる。
	2	職員の配置数は適切である	100%				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	66.7%	33.3%			・改修が必要な箇所を考え、改善を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	50%	33.3%	16.7%		業務改善に全職員が参画できる体制整備を行う。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	66.6%	16.7%	16.7%		・評価表を参考に、業務改善に役立てる。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	66.6%	16.7%	16.7%		・今回のアンケート実施時に、ホームページ情報の周知を行いました。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	33.3%	60%	16.7%		・他事業所等との連携協力体制整備を図り、第三者評価を取り入れる。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%				
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%				
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	66.6%	16.7%	16.7%		・活動プログラム立案をチームで行う体制整備を図る。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	83.4%	16.7%			・改善箇所の抽出と活動の振り返りを行う。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	66.7%	33.3%			・よりきめ細やかに設定できる様に、振り返りを行い反映させる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	50%	33.3%	16.7%		・業務ルーティンの改善を図り、役割分担をわかり易い様に改善する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	50%	50%			・振り返りや気づきのディスカッション出来る様に改善を行う。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	66.7%	33.3%			・検証と改善がつながる様に、改善箇所の記録取りを行う。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	83.3%	16.7%			・情報の共有強化を行い、計画に直しを全体で行う様、改善する。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	66.7%	33.3%			・ガイドラインと活動の紐づけを明確にして、情報共有化を行う。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 3年 3月15日

事業所名 olive

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%				
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	50%	33.3%	16.7%		・受け入れを想定して、考えられる連絡体制の準備を行う。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	50%	50%			・職員への情報共有を強化する。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		100%		・対象児童がいない	・他事業所への情報共有化を想定して取り組む。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	83.3%	16.7%			・助言や研修受講後に、全職員への周知を行う。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	33.3%	66.7%			・新型コロナの動向を見極め、活動機会が取れる様に体制を作る。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	16.7%	50%	33.3%		・協議会等の情報を職員へ周知を行い、参加できる体制を作る。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%				
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	16.7%	83.3%		・資料の配布。頻回ではない。	・支援内容等の勉強会を実施する。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50%	33.3%	16.7%		・新型コロナの動向を見極め、早期に開催できる準備を行う。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	66.6%	16.7%	16.7%		・情報発信方法の改善を行い、職員への周知も行う。
	35	個人情報に十分注意している	100%				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%				
非常時 等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	16.7%	50%	33.3%		・地域とつながりある事業所となる様に、改善を図る。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	66.7%	33.3%			・マニュアル保管箇所の改善し、再周知を行います。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	83.3%	16.7%			・不定期となっている為、固定した実施が行える様に改善します。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	83.3%	16.7%			・新職員への研修スケジュール作成し、個別での研修実施が出来る体制を作ります。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	66.7%	33.3%			・組織的決定が行える環境整備を行います。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	66.7%	33.3%			・指示書の有無情報を含み、情報共有化の体制整備を行います。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	33.3%	66.7%			・情報共有の強化を行います。